

地震が起こる前の安全対策

考えてみよう



地震はいつ起こるか分かりません。
いろんな場面で地震が起きた場合に身を守る方法や注意点について考えておきましょう。



「備えあれば憂いなし」チェック

■揺れから身を守るために

- ☐ 寝室にはできるだけ物を置かない。
- ☐ 家具の配置の見直し・転倒防止
- ☐ 窓や家具のガラスなどに飛散防止テープをはる。
- ☐ 家の耐震性を調べ、補強する

■避難するために

- ☐ 玄関や廊下にはできるだけ、物を置かない。
- ☐ 暮らししている地域の危険性を知っておく。
 - ①地域がどれくらい揺れるか
 - ②津波の到達する時間と浸水する範囲
- ☐ 津波からの避難スペースと避難経路を、自宅、職場、学校などの場合でそれぞれ調べておく。
- ☐ 実際にその経路を歩いてみて、避難スペースまでの時間や途中の危険な場所を知っておく。
- ☐ 枕元に、懐中電灯・携帯ラジオ・靴・メガネ・補聴器などは必ず置いて寝る。

■初期消火のために

- ☐ 消火器を置き、その使い方を覚えておく。

■地震後の生活のために

- ☐ 日頃から、水・食料は多めに用意しておく。

■地震が起きた場合の行動をみんなで確認

- ☐ 地震後の集合場所や緊急の連絡先・連絡方法を家族と話し合い、決めておく。

■地域でお互いに助け合うために

- ☐ 地域の防災活動に参加する。

地震の揺れと想定される被害

0	人は揺れを感じない。	5弱	棚にある食器類、書籍の本が落ちることがある。窓ガラスが割れることがある。電柱が揺れているのがわかる。
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。	5強	多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難になる。
2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。吊り下がった電灯などがわずかに揺れる	6弱	立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。棚にある食器が音を立てることがある。電線が少し揺れる。	6強	はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動、転倒する。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
4	かなりの恐怖感がある。吊り下げたものは大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てることがある。電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる。	7	自分の意志で行動ができない。ほとんどの家具が移動し、飛び出すものもある。耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損することがある。

津波から身を守る10のポイント

津波から身を守る最大のポイントは、とにかく高い場所へ逃げることです。
いざという時のために、正しい知識を身に付けておきましょう。

1. 小さな揺れでも油断禁物！

小さな揺れでも津波の危険性がある。



6. 満潮の時は要注意

水位が高くなっているため、被害が大きくなる。



2. 高い場所へ避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難。



7. 家族会議を開こう

避難する場所を事前に家族で話し合っておく。



3. 津波のスピードは速い！

「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もある。ただちに避難。



8. 正しい情報を聞く

ラジオ・テレビ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きます。



4. 津波はくり返し来る！

津波はくり返し襲ってくる。波が落ち着くまで避難します。



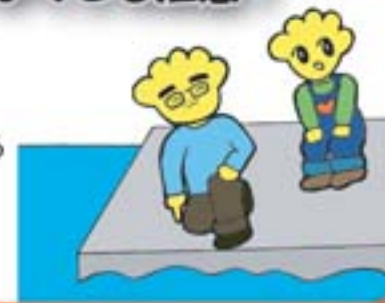
9. 注意報、警報が出たら

家族や近所に知らせ、いそいで高台に避難します。



5. 引き潮がなくとも注意！

津波の前に引き潮が必ずあるとは限らない。



10. 海岸・河川に近づかない

注意報、警報が解除されるまで海辺や河川には近づかない。

